

がんセンター がん・生殖医療外来の ご案内(院内版)

若年のがん患者さんが
がん治療を開始する前に

将来、子どもを持つこと
について

知ってほしい
考えてほしい

ことがあります

がん治療と妊娠について

がんと告げられて、「ショックで将来のことまで考える余裕はない」と思われるかもしれません。

しかし、がん治療により、将来子どもを持つことが難しくなる可能性があるため、治療前に“子どもを持つこと”“育てること”について考えることをおすすめします。

どうしてがん治療によって子供が持ちにくくなるの？

がん治療で行う、手術、化学療法（抗がん剤治療）、放射線治療によって、妊孕性（にんようせい：妊娠する力）が低下する可能性があるからです。

がん・生殖医療ってどんなことをするの？

がん治療の開始前に、生殖医療の技術を使って、妊孕性の温存を試みることを、がん・生殖医療と呼んでいます。



妊孕性温存の方法は？

男性・・・精子凍結

女性・・・卵子凍結

既婚者の場合

胚(受精卵)凍結

卵巣組織凍結

という方法があります

将来子どもが欲しいか、今はピンときません。 どう考えたらいいですか？

この相談外来は、子どもが欲しい、妊孕性を温存したいという方だけでなく、話を聞いてみたい、相談したいという方も受診できます。

対象となる方

男性、女性を問わず、子どもを持つことについて正しく知りたい、相談したいと思うがん患者さんと、そのご家族

相談料はどれくらいかかりますか？

自費診療のため、30分までを1万円(税別)とし、以降30分延長ごとに5,000円(税別)が加算されます。



がん・生殖医療外来 お申し込み方法

- *主治医（外来、病棟スタッフでも可）に、受診したい旨をお知らせください。
- *主治医より、日時をお知らせいたします。

岐阜県にはがん患者生殖機能温存治療費 の助成事業があります

詳しくは、岐阜県公式ホームページをご覧ください。



参考動画案内

『がん治療を始める前に』



発行元：
岐阜大学医学部附属病院
がんセンター

